

メルマガにご登録の皆様、こんにちは。

これまで、メルマガの冒頭には、当財団の理事長（匿名にしておりましたが、実は理事長の執筆でした！）による、折々の話題を取り上げたエッセイ風のコラムを掲載してまいりました。毎号お楽しみにされていた方も多いと思います。

今号からは財団の職員が持ち回りで、「財団をアピール」することをコンセプトにリード文を掲載することになりました。出来不出来はあるでしょうが、「生涯学習」に熱い思いを寄せる財団職員の心意気には変わりはありません。吉と出るか凶と出るか、どうぞご期待ください。

と、いうわけで今回がお初になるわけですが、、

今年の夏は、新型コロナの第7波が到来しましたが、各地のイベントは「〇年ぶり」に開催など、感染防止を徹底したうえで実施されているようです。当財団でも、サマーキャンプ（小学校5年生～中学2年生を対象）を3年ぶりに実施しました。キャンプ地は島根県益田市、岩手県花巻市、長野県富士見町の3コースです。

お陰様で、どのコースも定員を上回る応募があり盛況でした。参加した引率者からは、受入れ自治体の心のこもったもてなしを受け、「人との交流がどれだけ子どもの成長を促すか計り知れない」などの感想がありました。筆者も8月8日から8月11日にかけて長野県の富士見町に引率者として参加しました。行きのバス中では緊張していた子どもたちが、その日の夜に行うキャンドルファイヤーの出し物の話し合いでは、チームごとにすっきり打ち解けて目標に向かって一つになっている様子が印象的でした。

さて、当財団のサマーキャンプには3つの特徴があります。

- 1 初めて出会う子ども同士がグループで活動する
- 2 友好自治体の地域・子どもとの交流がある
- 3 自然の豊かさ、地域文化の豊かさを感じる体験ができる

ひと夏の短い経験ですが、子どもたちの成長は手を取るように実感できます。

適齢のお子さまがいらしたら、どうぞ当財団のサマーキャンプをお勧めください。

M. I